

授業者 千菊 基司

クラス 4年D組 40名 (男子20名, 女子20名)

場 所 4D HR

1. 単元 CROWN English Series I Reading 1: Fast Food

2. 題材のねらい

この題材は、星新一の短編集に収録されている作品の翻訳である。登場人物の行動に、新しい科学技術が無批判に受け入れてしまいがちなところや、欲に目がくらむと冷静な判断ができなくなっている様子が描かれている。

この題材の、教科書全体の中の位置づけとしては、文法や新出語に過度にとらわれることなく、物語の世界に生徒が入り込めるよう導くことが、指導計画に求められるのであろう。作者のメッセージを、できるだけ正確な、そして、根拠のある読みとりになるよう、概要把握活動や、あらすじのまとめの作製を含めた単元計画とした。

3. 単元計画 (全5時の活動のテーマ)

- 1 時間目 背景知識の活性化
- 2 時間目 物語の展開の把握(1)
- 3 時間目 物語の展開の把握(2)
- 4 時間目 あらすじをまとめる
- 5 時間目 読みを基に発信する [本時]

4. 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度

- ①積極的に英語で自分の考えを表現しようとしている。

イ 表現の能力

- ①自分の意見や考えを英語で述べることができる。

ウ 理解の能力

- ①文章の概要が把握できる。
- ②書き手の主張を理解することができる。

エ 知識・理解

- ①知覚動詞を用いた状況の説明を理解している。
- ②関係代名詞を用いた事物の説明を理解している。

5. 本時の主題

筆者のメッセージの理解と、それを英語で表現することが本時の目標だが、メッセージの作成においては、限られた語彙・文法知識しかないからと安易に妥協させないように、指導の工夫が必要だと考えている。格言やことわざを借りてきてまとめるというように、生徒の理解が表面的なもので終わらないように気を配りたい。まず英文による要約活動では、登場人物の立場の違いによって異なる要約を作成させる。前時までに作成した要約文を基にし、プロセスライティングの発想を利用し、より高度な表現力の育成を目指す。また、どちらの登場人物の立場でメッセージを書くのが良いかも考えさせ、書き手の意図を意識した発信となるように、よりよい「メッセージ」の候補をグループ活動の手法を利用して引き出し、最終的にはクラス全体で考えていく。

6. 授業展開過程

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価の実際
10	Warm up 野菜栽培に関するクイズ 前時に完成したまとめ文の音読	本文の情報の理解が深まるようにと上げる。	
15	Comprehension ① 登場人物それぞれの立場からまとめ直す	立場が違えば、出来事の意味も変わるので、異なる形容詞が必要。 他にも語彙の活性化を行ってから、作文活動に入る。	観察 ワークシート提出
35	Comprehension ② 筆者のメッセージ	どちらの登場人物の立場でメッセージを考えるのが良いか考えさせる。 R氏がだまされた理由が筆者のメッセージになる、とまとめる。	観察 ワークシート提出

授業者 川野 泰崇

クラス 2年B組 41名 (男子20名, 女子21名)

場 所 2 B HR

1. 単元 Unit 7 A Friend in Need, *COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE 2* (光村図書)

2. 単元のねらい

本単元は、Hiro と Jenny が、最近クラスの皆と折り合いがつかずにいる Daisuke について、周囲の反応を心配して何もしないでおくべきか、あるいは、これまでどおり声をかけて仲良くすべきかを言い合っている場面である。比較級・条件節・慣用句など相手を説得するための表現が多く用いられており、相手の発言に対して自分の考えを伝える力を身につけるのに適した単元と言える。さまざまな表現を学びながら、日常で直面しそうな場面において、依頼や勧誘したり、事情を説明して断ったりする対話能力を養いたい。

3. 単元計画 (全6時)

- 第1時 単元の目標と本文の内容を理解する。比較級を用いた文の構造を理解する。
- 第2時 本文のその後の展開を考え、発表する。
- 第3時 比較級や条件節を用いて自分の考えを伝える。
- 第4時 さまざまな慣用句とその使用場面について理解する。
- 第5時 身近な問題について自分の考えを伝える。(本時)
- 第6時 身近な問題について自分の考えを伝える。

4. 単元の評価規準

- コミュニケーションに対する関心・意欲・態度
 - ①ペアワークにおいて積極的に話しを継続している。
- 表現の能力
 - ①相手の発言に対して自分の考えを伝えることができる。
- 理解の能力
 - この単元では評価規準を設定しない。
- 言語や文化に対する知識・理解
 - ①英語の慣用表現について知っている。
 - ②比較級を用いた文の構造を理解している。
 - ③条件節を用いた文の構造を理解している。

5. 本時の主題

中学校2年生では、身近な話題についてペアで自分の考えを伝え合う練習を行う。さまざまな場面で同様の技能が活かせるよう、段階的に話す内容を膨らませながら自己表現力をつけることをねらいとする。

6. 授業展開過程

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価の実際
5	<p>Warm-up(帯活動) スピーキングの練習を行う。</p> <p>Practice 与えられた状況の中で、自分の考えを伝えあうための role-play 練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で話す雰囲気作りをする。 ・自分の考えを伝えるための表現方法を確認し、言語操作の負荷を軽減する。 ・対話の流れを示しながら turn-taking をとりやすくする。 ・全員が達成できるよう段階的にモデルを示す。 ・内容を考えるための時間を十分与えた後にペア活動に移る。 	
30	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・文法ミスは指摘せず発表しやすい雰囲気作りをする。 	発表
40	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を再確認し定着を深める。 	